

指定管理者制度導入施設の運営状況（平成26年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地	大分市高砂町2-33
		電話番号	097-533-4000
		ホームページ	http://www.emo.or.jp/
施設名	大分県立美術館	所在地	大分市寿町2-1
		電話番号	097-533-4500
		ホームページ	http://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 平成25年10月1日～平成30年3月31日	県の所管部課 (局・室)	企画振興部 芸術文化スポーツ局 芸術文化振興課 TEL：097-506-2058
-------	-------------------	---	-----------------	--

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日	※iichiko総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例	
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。	
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること。 ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること。 ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること。 ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・ iichiko音の泉ホール（中ホール 710席） ・ iichikoアトリウムプラザ ・ リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・ 駐車場（295台） 	
使用料等	※終日利用の料金 ・ iichikoグランシアタ：221,800円～487,900円 ・ iichiko音の泉ホール：96,900円～217,100円 ・ iichikoアトリウムプラザ：5,000円～80,000円 ・ リハーサル室・練習室：3,400円～16,800円、映像小ホール：34,900円、県民ギャラリー：9,000円～10,800円 ・ 会議室：13,200円～28,100円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円	
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）	

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	・ 芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	
事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ ・ 2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ ・ 3階 展示室B コレクション展示室 ・ 屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時） 	

使用料等	※終日利用の料金 ・ iichikoグランシアタ：221,800円～487,900円 ・ iichiko音の泉ホール：96,900円～217,100円 ・ iichikoアトリウムプラザ：5,000円～80,000円 ・ リハーサル室・練習室：3,400円～16,800円、映像小ホール：34,900円、県民ギャラリー：9,000円～10,800円 ・ 会議室：13,200円～28,100円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの利用率の合計を2で除した数	平成23年度	83.5	90.2	108.0%
	平成24年度	83.5	88.9	106.5%
	平成25年度(上期)	83.5	85.7	102.6%
	平成25年度(下期)	87.0	89.6	103.0%
	平成26年度	87.0	84.3	96.9%

5. 施設の利用状況

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成23年度	19,517	13,332	22,955	25,865	27,904	21,201	
	平成24年度	21,108	23,056	22,053	15,756	24,548	21,738	
	平成25年度	18,896	20,965	13,620	21,122	22,487	20,381	
	平成26年度	9,076	23,441	17,952	22,879	28,808	26,319	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成23年度	22,925	27,153	19,524	11,559	21,912	27,078	260,925
	平成24年度	22,367	24,795	24,680	10,874	19,177	23,381	253,533
	平成25年度	22,639	18,470	19,621	14,597	14,043	23,226	230,067
	平成26年度	22,358	26,666	15,856	15,123	15,037	27,908	251,423

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	①施設利用者アンケート(H27年3月実施)：733団体(個人を含む)うち252団体回答(回収率34.3%) ②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施 ③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6ヶ所)による意見の受付
	実施結果	○iichiko総合文化センターの施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」「普通」を合わせると97.6%となり、ほとんどの利用者が満足している。 ○施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」「知名度が高い」などである。 ○自主公演ごとのアンケートでは、ほぼ全ての公演で「たいへん良かった」「良かった」が90%を超えている。
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
音の泉ホール舞台への動線がわかりにくい。		これまで財団事務室内を通行していたが、利用者がわかりやすいように独立した動線を設けた。
ホール楽屋の椅子にがたつきがある。		椅子のキャスター部分を交換した。
温水洗浄便座付のトイレを増やしてほしい。		各フロアのトイレの一部を温水洗浄便座を取り付けた。
車椅子利用者が音の泉ホールの客席にスムーズに入れるようにしてほしい。		施設の構造上の問題から、車椅子利用者が音の泉ホールの客席に入るためにはエレベータの切り替えが必要であり、その作業に時間がかかっていたが、OASISひろば21の建物管理者との連携により、エレベータの切り替え時間を短縮した。

7. サービス向上に係る主な取組内容

<p>サービス提供体制の強化</p>	<p>① 美術館の管理業務に関して、美術館の特殊性を考慮すべき業務を除き、駐車場警備、清掃、設備等の業務を文化センターの業務と一括で発注するなど、スケールメリットを活かした最適な方法で委託した。</p> <p>② iichiko総合文化センター1階のインフォメーションでは、施設の予約、チケット販売、友の会の入会などiichiko総合文化センターのサービス窓口としてワンストップで対応することはもとより、美術館の企画展の前売券を販売するなど、両施設の連携によるサービス提供にも努めた。</p> <p>③ iichiko総合文化センターの友の会「emo倶楽部」を発展的に解消し、県立美術館とiichiko総合文化センターを中心に県内の芸術文化に広く親しんでもらうため、「大分県芸術文化友の会：びび」を県と共同で立ち上げ、会員拡大に取り組むとともに、様々な芸術文化関連情報の発信やチケット割引等各種サービスの提供を行った。</p> <p>④ 施設と駐車場の一体的利用の促進を図るため、練習室利用者を対象に駐車場利用料金割引券を提供するサービスを試行した。</p> <p>⑤ バンド練習の需要が減少してきたため、バンド練習専用となっていた練習室1室にピアノと移動式ミラーを設置し、合唱やダンスの練習等多目的に利用できるように改装した。</p> <p>⑥ 会議室や県民ギャラリーでは、iichiko総合文化センター開館以来初めて壁紙を張り替えるなど、経年劣化により痛んでいる施設を、利用者が気持ちよく利用できるように環境整備を実施した。</p> <p>⑦ 障がい者団体や子育てサークルの方々ご意見を踏まえ、県との連携により点字ブロックを改修するなどバリアフリーの観点で施設の見直しを行った。</p>
<p>イベント等の充実</p>	<p>【芸術文化ゾーン】</p> <p>① 8月に開催した「Tanavata Starlight Express 2014」では、文化センターアトリウムプラザや市内中心部商店街を会場として、音楽、アート、パフォーマンス等が融合した事業を実施した。</p> <p>② 12月に開催した「HEart of Christmas! 2014」では、中高生芸術文化祭「ミラスタ」や音楽療法ワークショップ、県内大学との協働による子ども向けアート体験イベント、福祉施設の出店など教育、福祉、医療等様々なジャンルとのネットワークを活用したイベントに取り組んだ。</p> <p>【総合文化センター】</p> <p>① 県立芸文短大や東京二期会との連携のもと、「大分オペラフェスティバル」と銘打ち、平成27年1月から3月にかけてグランシアタにおいてオペラ3公演を実施した。なかでも、財団主催の「オテロ」は、神奈川県民文化センター、びわ湖ホール、東京二期会との共同主催により実施した。</p> <p>② 「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ」に関しては、年度末に開催した第6回定期演奏会で大曲に挑戦し1,359名の来場者に演奏を披露したほか、弦楽や管楽器アンサンブルによる出張演奏を行うなど、一層活動の場を広げた。</p> <p>③ 9月に開催した「松竹大歌舞伎」は、市川猿之助、市川中車という話題の二人の襲名披露公演ということもあり、昼夜とも満席に近い3,568名の来場者は大いに沸いた。</p> <p>④ 「ワンコインリレーコンサート」に関しては、500円という低価格で様々なジャンルの一流の音楽を楽しむことができる演奏会を年間を通じて5回開催した。</p> <p>⑤ ミュージカル体験ワークショップに関しては、発表の場を取り入れるとともに、遠隔地で開催するなど内容を充実させて効果をあげた。</p> <p>⑥ 歌舞伎やオペラなど鑑賞が難しいと思われがちなジャンルについて、実演を交えてわかり易く解説するレクチャーを実施し、舞台芸術の愛好者を増やすことができた。</p> <p>【県立美術館】</p> <p>① 4月24日から5月3日の間、県との共催により「OPAMフェスタ」を開催し、青柳文化庁長官の講演やシンポジウム、作家のトークイベント、設計者の坂茂氏の建築作品の展示などを行った。</p> <p>② 11月23日から30日までの間、県との共催により竣工記念イベント「OPAM誕生祭」を開催し、美術館一般公開、展示室Aでの展覧会や各種イベントを実施した。初日にはiichiko総合文化センターの間の国道を歩行者天国とし、中学生のスケッチ大会等も実施した。</p> <p>③ 教育委員会など関係機関と連携して、県内の小中学校や公共施設のべ40か所でアウトリーチによる美術体験プログラムを実施した。</p> <p>【文化情報の発信・提供】</p> <p>① 機関誌emo、イベントカレンダー等の発行、近隣商店街での大型ポスター掲示やインターネットを通じてiichiko総合文化センターの施設紹介や公演・イベントの周知を図るとともに、県内の芸術文化に関する様々な情報を提供した。</p> <p>② 県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめた「ホールナビ」を作成し、ホームページや新聞広告等を通じて県内外に情報発信を行った。</p> <p>③ 平成27年4月の県立美術館開館に向けて、建物の建設状況や事業内容等をホームページ、フェイスブック、ツイッター等を活用して情報発信するとともに、開幕行事のポスター、フライヤーを作成して、全国の美術館・博物館や地元商店街等に配付し、周知を図った。</p> <p>④ 県立美術館まちなか支局において、展覧会や教育普及事業に関する展示、所蔵作品等の紹介などを通じ、平成27年4月の美術館に向けて美術館事業の情報を発信した。</p>

8. 管理に係る収支の状況

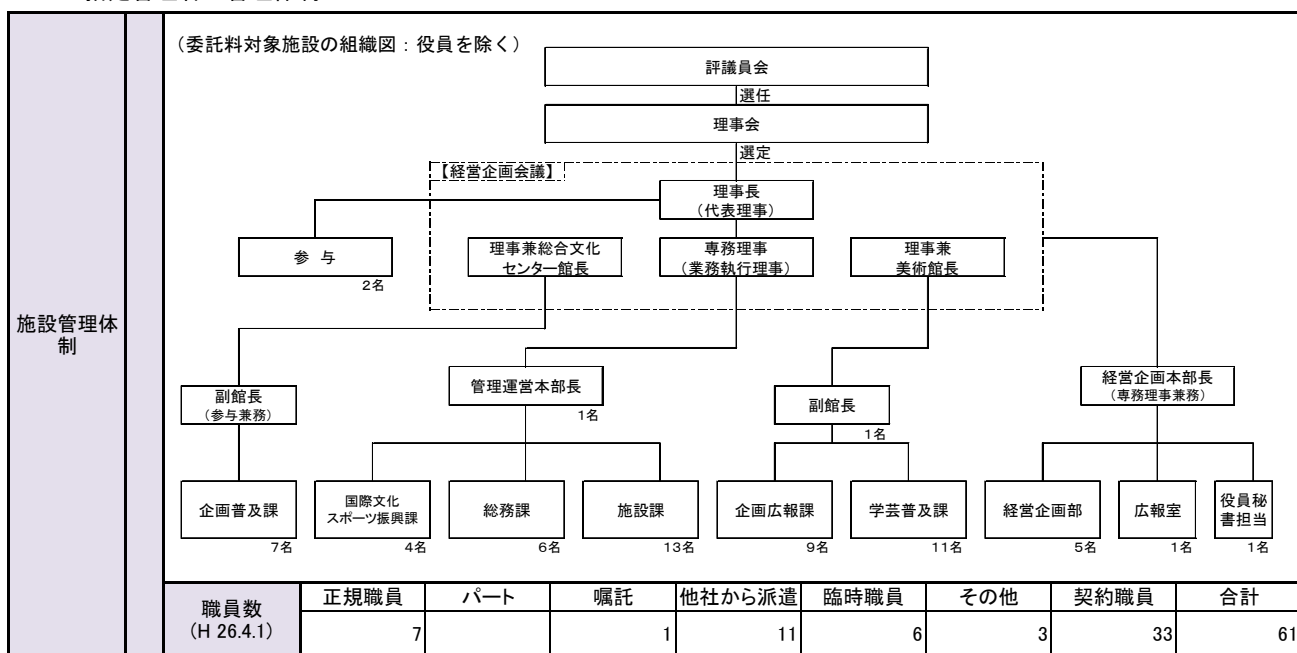
(単位：千円)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
収入額(A)		385,949	387,091	413,555	611,033
内訳	県からの委託料	113,324	120,544	160,879	344,813
	利用料金	271,975	265,933	251,641	260,748
	雑収入	650	614	1,035	5,472
支出額(B)		385,949	387,091	413,555	611,033
内訳	人件費	80,897	83,656	102,144	182,954
	維持管理費	14,348	2,224	4,206	3,824
	事業費	254,732	274,556	283,655	399,175
	繰入金	11,828	0	0	0
	iichikoパートナーシップ履行事業費	22,500	22,500	22,500	24,000
	サービス改善提案事業費	1,050	1,050	1,050	1,080
	その他	594	3,105	0	0
収支差額(A-B)		0	0	0	0

9. 施設使用料等の収入状況

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成23年度	46,161	17,857	25,352	24,118	24,724	18,567	
	平成24年度	43,200	17,124	22,348	23,712	21,094	22,104	
	平成25年度	35,276	20,065	24,231	19,679	21,017	22,205	
	平成26年度	27,885	21,960	27,432	21,736	22,032	20,690	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成23年度	25,286	19,840	18,489	13,083	19,987	18,511	271,975
	平成24年度	21,051	23,084	20,575	15,219	16,119	20,303	265,933
	平成25年度	19,393	18,680	18,571	16,747	13,456	22,321	251,641
	平成26年度	18,894	22,691	17,296	19,536	15,524	25,074	260,750

10. 指定管理者の管理体制



1 1. 適正な管理運営に係る主な取組内容

<p>職員の資質・能力の向上</p>	<p>① 「技術委員会」、「アートマネジメント研修会」等に職員を派遣し、地域における芸術文化振興の中核として、施設の円滑な運営を行うためのノウハウの習得に努めた。</p> <p>② 「全国公立文化施設協議会九州支部技術研修会」を石橋文化センターで実施し、九州各地40団体、80名が参加した。当財団が会長館を務め、施設の円滑な運営を行うためのノウハウについて九州各県の類似館と情報交換することができた。</p> <p>③ iichiko総合文化センターのホールレセプションニストとして活躍しているボランティアスタッフに関しては、他館のスタッフの活動の視察、財団自主公演の制作への参画などを通じて、多面的なスキルアップを図った。</p> <p>④ 美術館開館に向けて組織体制の充実、強化を図るとともに、県内外の美術館に職員を派遣し、来館者の誘導や安全対策、展示室の貸館対応等のノウハウを習得するための研修を行った。</p> <p>⑤ 美術館事業の円滑な運営と県民参画の場の提供を目的にボランティア「OPAMサポーター」を募集し、167名の応募があった。登録、活動準備を行うとともに、事前研修を行った。</p>
<p>安全対策等</p>	<p>【iichiko総合文化センター】</p> <p>① エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立できた。</p> <p>② 公演中の停電や機器の不具合発生など不測の事故発生を防止するため、施設・機器の利用前後の点検を実施し、施設利用者や来場者の安全対策に万全を期した。</p> <p>③ 施設の計画的・効率的な維持補修のため、県施設整備課と連携して大規模改修計画を作成して計画的な修繕等を行った。</p> <p>④ OASISひろば21の統括管理者である(株)エフ・ティー・シー大分と催事情報の共有等を図るとともに、適時、共同で施設巡回を実施し、異常箇所がないか確認を行い、異常な箇所が発見されたときは速やかに対応した。</p> <p>【県立美術館】</p> <p>① 消防計画を策定するとともに、消防署の指導のもと施設の引き渡し後速やかに消防訓練を実施し、美術館の開館に向けて非常時の安全確保など危機管理体制を備えた。</p> <p>② 施設の引き渡しにあたって、県と連携して駐車場を含めた施設の点検を行うとともに、県及び施設の設計担当者、工事施工者との協議を重ね、必要に応じて手直し工事を要請するなど、施設の安全性の向上に努めた。</p> <p>③ 警備、清掃、設備保守の委託業者決定後、定期的に連絡会議を開催し、美術館の開館に向け情報共有を図るとともに、館内の安全対策等について意見交換を行い、開館後の施設の管理運営体制を整備した。</p> <p>④ 施設引渡し後の11月後半に県との共催により「OPAM誕生祭」を開催し、実際に来館者が入った状態での警備、誘導等のシミュレーションの検証を通じて、開館後の安全対策について検討した。</p>